

研修カリキュラム表

事業所名：ささえあいコミュニティ生活協同組合新潟 講座事業部

令和2年度

科目の内容等				評価方法
科目の細目	時間	「修了時の評価ポイント」番号	実施方法	
1 職務の理解（6時間）				
多様なサービスの理解	3	-	介護保険制度で提供される介護サービス、保険外サービスの概要を説明する。また、代表的な居宅サービス、施設サービス等を視聴覚教材を用いて紹介する。	評価なし
介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	-	働く側・利用者側の双方からみた介護サービスの状況を施設・サービスごとに紹介する。また、事例を基にグループワークを行う。	
2 介護における尊厳の保持・自立支援（10時間）				
人権と尊厳を支える介護	5	2-②	人権や尊厳を守ることの重要性を哲学・制度・法律とともに説明する。また、事例を基にグループワークを行う。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
自立に向けた介護	4	2-①	自立に向けた介護の重要性と意義、介護予防や重度化予防の視点について説明する。また、事例を基にグループワークを行う。	
小テスト②	1	2-①、2-②	筆記試験により、理解度の確認を行う。また、講師が解説・解答を行い、理解の定着を促す。	
3 介護の基本（7時間）				
介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	3-①、3-②	地域包括ケアの重要性や介護職の役割と専門性、多職種の理解と連携の方法について説明する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
介護職の職業倫理	2	3-③	介護職の専門家としての社会的責任、倫理に根ざした姿勢、支援の方法を説明する。また、事例を基にグループワークを行う。	
介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	3-④	安全を確保するための事故への備え・環境整備等のリスクマネジメントの考え方や方法について説明する。	
介護職の安全	1	3-⑤	介護職員の安全衛生を守るための事業者の取り組みや、こころの健康管理について説明する。	
小テスト③	1	3-①、3-②、3-③ 3-④、3-⑤	筆記試験により、理解度の確認を行う。また、講師が解説・解答を行い、理解の定着を促す。	
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（10時間）				
介護保険制度	3	4-①、4-②、4-③	介護保険制度創設の背景と目的、財政的な背景、行政の役割、実際のサービス内容や利用の流れを説明する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
医療との連携とのリハビリテーション	3	4-⑤	医療や福祉との連携、各々のサービスや連携のあり方、介護職員が行うことができる医療的ケア、リハビリテーションの役割や専門性について説明する。また、事例を基にグループワークを行う。	
障害者自立支援制度及びその他制度	3	4-②、4-④	障がい者への支援については、障害者自立支援制度を中心に、社会的な支援システムとサービスの内容、利用の流れ等について説明する。そして、社会的な支援が必要な人の生活や権利を守るためのさまざまな制度を説明する。	
小テスト④	1	4-①、4-②、4-③ 4-④、4-⑤	筆記試験により、理解度の確認を行う。また、講師が解説・解答を行い、理解の定着を促す。	
5 介護におけるコミュニケーション技術（7時間）				
介護におけるコミュニケーション	3	5-①、5-②、5-③	コミュニケーションの意義、目的、役割から、コミュニケーションの基本技術、利用者や家族、さまざまな障がいのある人とのコミュニケーションの実践について説明する。また、ロールプレイを行う。	

介護におけるチームのコミュニケーション	3	5-④	記録の意義から効率的な記録の記載法をはじめ、報告、連絡、相談の意味や意義、カンファレンスや事例検討会、担当者会議の留意点について説明する。また、記録の演習を行う。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
小テスト⑤	1	5-①、5-②、5-③ 5-④	筆記試験により、理解度の確認を行う。また、講師が解説・解答を行い、理解の定着を促す。	
6 老化の理解 (7時間)				
老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	6-①	老化により高齢者のこころとからだはどのように変化し、どのような状態になるのかを説明する。そして、老化の理解を通して、高齢者の介護における基本的な留意点を説明する。また、事例を基にグループワークを行う。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
高齢者の健康	3	6-②	高齢者に多い疾患、生活習慣病や老化に伴う疾患等について説明する。そして、疾患や障がいの基本的な理解を通して、日常における高齢者の生活支援の留意点を説明する。また、事例を基にグループワークを行う。	
小テスト⑥	1	6-①、6-②	筆記試験により、理解度の確認を行う。また、講師が解説・解答を行い、理解の定着を促す。	
7 認知症の理解 (7時間)				
認知症を取り巻く状況	1	7-①	認知症の高齢者の行動や心理症状の理解を通して、共感的な姿勢で関わるケアについて説明する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	7-②、7-⑤	認知症の診断等で用いられる評価法をはじめ、障がいの状態や原因となる疾患などの医学的な理解とともに、予防のための対策や健康管理について説明する。	
認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	7-③、7-④、7-⑥ 7-⑦	周辺症状の具体的な現れ方や症状、認知症の高齢者とのコミュニケーションや基本的なケアについて説明する。そして、認知症の高齢者と向き合うための、介護職員の基本的な姿勢を説明する。また、事例を基にグループワークを行う。	
家族への支援	1	7-⑧	認知症の高齢者を支える家族への支援を中心に説明する。そして、介護者の思いを理解し、介護職員としてどのように支えられるかについて説明する。	
小テスト⑦	1	7-①、7-②、7-③ 7-④、7-⑤、7-⑥ 7-⑦、7-⑧	筆記試験により、理解度の確認を行う。また、講師が解説・解答を行い、理解の定着を促す。	
8 障害の理解 (4時間)				
障害の基礎的理解	1	8-①	障害の概念、障がい者を支える制度や仕組み、法律について説明する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	8-①	視覚・聴覚・内部・精神障害等について、各々の疾患や症状、介護における留意点について説明する。	
家族の心理、かかわり支援の理解	1	8-②	家族の心理や障害受容、支援にあたっての留意点について説明する。また、事例を基にグループワークを行う。	
小テスト⑧	1	8-①、8-②	筆記試験により、理解度の確認を行う。また、講師が解説・解答を行い、理解の定着を促す。	
9 こころとからだのしくみと生活支援技術 (82時間)				
■ 基本知識の学習		13時間		
介護の基本的な考え方	4	9-②	介護の基本的な考え方として、介護の理念や法的根拠、介護を行ううえでの視点について説明する。また、事例を基にグループワークを行う。	①理解度について確認するため、筆記による小テストを行う。 →70点未満の者に対しては、必要な補講を行う。 ②研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	9-④	記憶や感情のメカニズムをはじめ、幸福感や生きがいを感じる自己の概念、さらには老化や障害の受容、適応について説明する。	
介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	9-⑤	人体の各部の名称をはじめ、骨や関節の構造、中枢神経や自律神経と内部器官等の基礎的な知識を説明する。	
小テスト⑨-1	1	9-②、9-④、9-⑤	筆記試験により、理解度の確認を行う。また、講師が解説・解答を行い、理解の定着を促す。	
■ 生活支援技術の学習		57時間		

生活と家事	6	9-①、9-⑥	生活支援としての家事サービスのあり方、実際の調理、洗濯、掃除等の家事サービスにおける留意点について説明する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
快適な居住環境整備と介護	3	9-③	快適な生活を送る為に必要な居住環境の整備から、利用者が生活の各場面で活用できる福祉用具(機器)について説明する。また、福祉用具(機器)の体験演習を行う。	
整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	9-⑦	身なりを整えることの意義や目的、整容のために必要な支援の方法や技術について説明する。そして、予め講師が示す事例に基づいて実技演習を行う。	介護技術を適用する各手順のチェックリスト形式による確認を行い、介護技術の習得度に係る評価を行う。
移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	12	9-⑧	移動・移乗の意義、安全で安楽な介助を行うボディメカニクス、人体の構造や基本肢位、具体的な介護技術等について説明する。そして、予め講師が示す事例に基づいて実技演習を行う。	
食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	9-⑨	食事の意義と目的、栄養に関する知識、代表的な疾病における栄養や調理、食事介助の方法について説明する。そして、予め講師が示す事例に基づいて実技演習を行う。	
入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	9-⑩	さまざまな生活動作を伴う入浴における介助、清拭や部分浴に関する支援の方法について説明する。そして、予め講師が示す事例に基づいて実技演習を行う。	
排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	9-⑪	排泄に関する基礎知識をはじめ、具体的な支援の方法について説明する。そして、予め講師が示す事例に基づいて実技演習を行う。	
睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	5	9-⑫	睡眠のメカニズム、心地よい睡眠を確保するための環境、福祉用具の活用法、快い睡眠のための支援の方法について説明する。そして、予め講師が示す事例に基づいて実技演習を行う。	
実技試験	4	9-⑦、9-⑧、9-⑨、9-⑩、9-⑪、9-⑫	介護技術を適用する各手順のチェックリスト形式による確認を行い、介護技術の習得度に係る評価を行う。	
死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	2	9-⑬	終末期ケアの基礎的知識から、死にいたる過程、死を迎える高齢者と家族の心理と支援の方法について説明する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
小テスト⑨-2	1	9-①、9-③、9-⑥、9-⑬	筆記試験により、理解度の確認を行う。また、講師が解説・解答を行い、理解の定着を促す。	
■ 生活支援技術演習		12時間		
介護過程の基礎的理解	6	9-①、9-②	支援を行ううえで最も重要な介護過程の意義や目的等、介護過程の基本的な視点や姿勢について説明する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
総合生活支援技術演習	6	9-⑦、9-⑧、9-⑨、9-⑩、9-⑪、9-⑫	複数の事例に基づいて、具体的な介護内容及び介護の留意点等をグループワーク・実技演習等を通して展開する。	介護技術を適用する各手順のチェックリスト形式による確認を行い、介護技術の習得度に係る評価を行う。
10 振り返り (4時間)				
振り返り	2	-	全過程を振り返り、レポートを提出させる。そして、討議を行い、研修を通して学んだこと、習得したことについての再確認を行う。	評価なし
就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2	-	基本的マナー等の業務における基本的態度を説明して、模擬演習を行う。そして、実際の事業所における研修の実例を紹介する。	
合 計	1 4 4 時間			